

- 問1 古代文明の発生地について述べた文として、アフリカ北東部のナイル川流域で栄え、象形文字を使用し、ピラミッドなどの巨大建築物を残した文明の名称を答えなさい。 (2019年 沖縄県公立入試 類似)
1. エジプト文明 2. メソポタミア文明 3. インダス文明 4. 中国文明
- 問2 日本列島において、人々がナウマンゾウなどの大型動物を狩り、植物の採集を行って生活していた、土器が使用される前の時代に、主に使われていた石器の名称として適切なものを選びなさい。 (2017年 群馬県公立入試 類似)
1. 打製石器 2. 金属器 3. 磨製石器 4. 骨角器
- 問3 秦の始皇帝が、中国の北部に「万里の長城」を築き、大規模な防壁を整備した歴史的な背景や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 京都府公立入試 類似)
1. 東南アジア諸国との交易を独占し、経済を活性化させるため 2. 北方の遊牧民の侵入を防ぎ、国内の安定を図るため 3. 仏教を国教として保護し、巡礼者のための道を整備するため 4. 国内の農民が勝手に国外へ逃亡するのを物理的に遮断するため
- 問4 古代文明の一つであるエジプト文明において、天文学や数学などの科学技術が高度に発達した背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 沖縄県公立入試 類似)
1. 甲骨文字を用いて亀の甲羅で占うことで、政治的な意思決定を行うため 2. 都市国家アテネとの交易を円滑にするため、共通の度量衡を確立する必要があったため 3. ハムラビ法典のような厳しい法律を運用するために、文字の記録を重視したため 4. ナイル川の氾濫時期を予測し、洪水後の土地を正確に測り直す必要があったため
- 問5 紀元前16世紀頃に中国の黄河流域で興った、現在確認されている中で中国最古とされる王朝の名前として正しいものを選びなさい。 (2020年 岐阜県公立入試 類似)
1. 隋 2. 漢 3. 殷 4. 周
- 問6 古代中国の王朝である殷（商）において、政治のあり方と文字の成り立ちについて述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2020年 岐阜県公立入試 類似)
1. 粘土板に刻まれた楔形文字を用いて、目には目を、歯には歯をで知られる法典が記された。 2. 木簡や竹簡に墨で文字を書く技術が広まり、律令に基づいた法治国家の基礎が築かれた。 3. 亀の甲羅や牛の骨に占いの結果を刻む甲骨文字が使われ、それが漢字の原形となった。 4. バビルスに記録された象形文字を用いて、ナイル川の氾濫を予測する天文学が発達した。
- 問7 インダス文明の遺跡からは、動物などの図案とともに文字が刻まれた石造りの印章が多数発見されています。この文明で用いられた文字や、その背景について述べた文として正しいものはどれですか。 (2018年 東京都公立入試 類似)
1. 亀の甲羅や動物の骨に刻まれ、占いを通じて政治の判断に用いられた 2. バビルスにヒエログリフで記され、王の事績や神話が記録されていた 3. 粘土板に楔形文字が刻まれ、周辺地域との交易の記録として使われた 4. 独自の文字が刻まれているが、現在においても解読されていない
- 問8 キリスト教の聖地エルサレムをイスラム勢力から奪還するために行われた十字軍の遠征が、その後のヨーロッパの社会情勢に与えた影響として正しい説明を選びなさい。 (2017年 三重県公立入試 類似)
1. 地中海東岸への遠征を通じて、北アフリカから西アジア一帯をキリスト教勢力が完全に支配下に置いた。 2. カトリック教会の権威が以前よりも強固になり、封建領主が各地で独立した権力を握るようになった。 3. イスラム教との交流が完全に遮断された結果、ヨーロッパ独自の自給自足的な経済が完成した。 4. 遠征が失敗に終わったことでローマ教皇の権威が低下し、国王の権力が高まるきっかけとなった。
- 問9 7世紀にアラビア半島のムハンマドが、唯一の神であるアッラーからの啓示を受けたとして開いた、神への絶対的な服従を説く宗教は何か、次の中から選びなさい。 (2025年 千葉県公立入試 類似)
1. イスラム教 2. キリスト教 3. 仏教 4. 儒教
- 問10 日本の歴史における文化財や出来事について、年代の古いものから順に正しく並んでいるものはどれですか。鑑真が関わった唐招提寺の建立、重源らが中心となった東大寺の再建、足利義政による銀閣（慈照寺）の建立、石見銀山などの銀鉱山の開発、徳川家康を祀る日光東照宮の造営という5つのトピックの前後関係を基準に考えなさい。 (2015年 山口県公立入試 類似)
1. 唐招提寺の建立 → 銀閣の建立 → 東大寺の再建 → 日光東照宮の造営 → 銀鉱山の開発 2. 東大寺の再建 → 唐招提寺の建立 → 銀鉱山の開発 → 銀閣の建立 → 日光東照宮の造営 3. 唐招提寺の建立 → 東大寺の再建 → 銀閣の建立 → 銀鉱山の開発 → 日光東照宮の造営 4. 銀閣の建立 → 唐招提寺の建立 → 東大寺の再建 → 銀鉱山の開発 → 日光東照宮の造営
- 問11 飛鳥時代から江戸幕府が成立する1603年までの日本の歩みを整理した時系列において、最も古い時期である7世紀初めのアジアおよび世界の動向を説明したものとして、正しいものはどれですか。 (2021年 新潟県公立入試 類似)
1. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を唱え、信者を増やしていった。 2. ルターが教会の免罪符販売を批判し、ヨーロッパで宗教改革が始まった。 3. 秦の始皇帝が中国を統一し、北方の遊牧民族の侵入を防ぐために万里の長城を築いた。 4. マゼランの船団が世界周航を成し遂げ、地球が丸いことが証明された。
- 問12 イスラム教の教義が、当時の社会において受け入れられた背景やその仕組みについて説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 沖縄県公立入試 類似)
1. 各地の伝統的な神々をすべて認める多神教的な立場をとったため、商売繁盛を願う商人層から広く支持された。 2. 唯一神への絶対的な帰依とともに、神の前での平等や信者間の相互扶助を説いたことが、部族を超えた人々の結びつきを強めた。 3. 特定の聖典を持たず、文字の読めない人々でも日々の生活習慣だけで救われるという簡便な教理を特徴とした。 4. 生まれながらの厳格な身分制度を肯定し、それぞれの階級に応じた義務を果たすことが救済への唯一の道であると説いた。
- 問13 西アジアを流れるチグリス川とユーフラテス川の流域で栄えた、世界最古といわれる文明の名称と、その文明で発明され粘土板に刻んで使用された文字の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2020年 大阪府公立入試 類似)
1. インダス文明 — インダス文字 2. メソポタミア文明 — くさび形文字 3. エジプト文明 — 象形文字（ヒエログリフ） 4. 中国文明 — 甲骨文字

答え合わせ・解説

問1	答え 1 エジプト文明	ナイル川の定期的な増水によってもたらされる肥沃な土地を基盤に発展した文明です。天文学が発達して太陽暦が作られたほか、バビルスに記される象形文字（ヒエログリフ）などの文化が生まれました。
問2	答え 1 打製石器	土器が出現する前の旧石器時代には、石を打ち欠いて作った打製石器が使われていました。この時代の後の縄文時代になると、石を磨いて作る磨製石器や、食料を煮炊きするための土器が使用されるようになります。石器の作り方の違いは、旧石器時代と新石器時代（日本では縄文時代以降）を区別する重要な指標です。
問3	答え 2 北方の遊牧民の侵入を防ぎ、国内の安定を図るため	当時の中国にとって、北方から機動力を活かして攻め込んでくる遊牧民（匈奴）の存在は大きな脅威でした。始皇帝は中国全土を統一した後、国家の安全保障のために大規模な土木工事を行い、これら遊牧民の侵入を阻止するための防壁を築きました。これが万里の長城の起源であり、その後の王朝でも修復や改修が繰り返されました。
問4	答え 4 ナイル川の氾濫時期を予測し、洪水後の土地を正確に測り直す必要があったため	「エジプトはナイルのたまもの」という言葉がある通り、エジプトの生活はナイル川の恩恵を受けていました。毎年の増水時期を知るために天文学が発達して太陽暦が作られ、また、洪水によって境界が不明になった土地を再区画するために測量技術や幾何学（数学）が発達しました。
問5	答え 3 殷	中国の文明は大河の流域で発達しました。その中でも黄河流域では紀元前16世紀頃にこの王朝が成立し、青銅器の使用や、神意を問う占いによる政治が行われていました。後に続く周や、広大な帝国を築いた漢、中国を再統一した隋よりも古い時代にあたります。
問6	答え 3 亀の甲羅や牛の骨に占いの結果を刻む甲骨文字が使われ、それが漢字の原形となった。	殷の時代は、王が占いによって国政の重要事項を決定する神権政治が行われていました。その占いの道具として亀の甲羅や動物の骨が使われ、そこに刻まれた「甲骨文字」が現在の漢字のルーツとなりました。他の選択肢は、エジプト文明やメソポタミア文明、あるいは後の時代の中国の制度に関する説明です。
問7	答え 4 独自の文字が刻まれているが、現在においても解読されていない	インダス文明の印章に刻まれた「インダス文字」は、象形文字の一種と考えられていますが、ロゼッタ・ストーンのような解読の鍵となる資料が見つかっていないため、現在もその内容は解読されていません。選択肢にある楔形文字はメソポタミア文明、ヒエログリフはエジプト文明、甲骨文字は中国文明（殷）において使用されたものです。
問8	答え 4 遠征が失敗に終わったことでローマ教皇の権威が低下し、国王の権力が高まるきっかけとなった。	十字軍は長期にわたり遠征を繰り返しましたが、最終的に聖地を奪還できず失敗に終わりました。これにより、遠征を主導したローマ教皇の権威は衰え、多大な戦費を負担した封建領主や騎士も没落していきました。その一方で、勢力を維持した国王が中央集権的な国家体制を整え始め、中世社会の変化を促しました。また、遠征を通じて東方貿易が盛んになり、イタリアの諸都市が繁栄したことも重要な影響です。
問9	答え 1 イスラム教	ムハンマドがメッカで開いたこの宗教は、唯一神アッラーを信仰し、その教えは聖典「コーラン」にまとめられています。ムスリムと呼ばれる信者は、礼拝や断食など、生活全般において神への服従を実践することを重んじます。
問10	答え 3 唐招提寺の建立 → 東大寺の再建 → 銀閣の建立 → 銀鋤山の開発 → 日光東照宮の造営	奈良時代には唐の僧・鑑真によって唐招提寺が建立されました。鎌倉時代になると、源平の争乱で焼失した東大寺が重源らによって再建され、大仏様という建築様式が取り入れられました。室町時代（15世紀）には足利義政により東山文化の象徴として銀閣が建てられます。その後、16世紀（戦国時代から安土桃山時代）にかけて石見銀山などの銀鋤山開発が本格化し、江戸時代に入ってから徳川家康を祀る日光東照宮が現在の華麗な姿に造営されました。
問11	答え 1 アラビア半島でムハンマドがイスラム教を唱え、信者を増やしていった。	小野妹子が隋へ派遣された7世紀初め、西アジアではイスラム教が成立し、急速に勢力を拡大していました。ルターによる宗教改革やマゼランの世界周航は16世紀（日本では室町時代末期から安土桃山時代）の出来事です。また、秦の始皇帝による中国統一は紀元前3世紀の出来事であり、7世紀の日本の状況とは時期が大きく異なります。
問12	答え 2 唯一神への絶対的な帰依とともに、神の前での平等や信者間の相互扶助を説いたことが、部族を超えた人々の結びつきを強めた。	イスラム教は、神の前での平等を説き、富の再分配としての喜捨（寄付）や相互扶助を重んじました。この教理が、それまでの血縁や部族単位の対立を乗り越え、イスラム共同体（ウンマ）という新しい社会的な繋がりを形成する大きな要因となりました。
問13	答え 2 メソポタミア文明 — くさび形文字	現在のイラク付近を流れるチグリス川とユーフラテス川の間に広がる地域では、肥沃な土地を利用して農耕が始まり、メソポタミア文明が発展しました。この文明では、川の周辺で得られる粘土を板状にし、尖った棒などで文字を刻み込む「くさび形文字」が発明され、商業や法律の記録に使用されました。